

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	医療薬学特別演習 I		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(病態生理学) 免疫学、生体防御 (薬品作用学) 薬理学 (薬物治療学) 薬物治療学 (薬剤学) 薬剤学、製剤設計、DDS		
担当教員 (下線：科目責任者)	医		
	薬		
授業の概要	病態生理学、薬品作用学、薬物治療学、薬剤学の各分野において講義及び演習を行う。最新の論文を詳読し研究動向を学び、研究データの発表、議論を行うことで、幅広い視点から考察する能力を養い、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。		
到達目標	<p>(病態生理学) 免疫学に関する原著論文の内容を理解できる。原著論文の紹介や、自身のまとめた研究データの発表、議論を行うことができる。</p> <p>(薬品作用学) 薬理学に関する最新の文献詳読、研究データの発表を行う方法を修得する。</p> <p>(薬物治療学) 薬物治療学分野に関する最新文献、資料を収集、詳読、発表、議論することで研究の実行に必要な知識を修得する。</p> <p>(薬剤学) 薬剤学分野の文献収集、読解、データプレゼンテーション、議論の方法について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>(病態生理学) 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。(佐藤慎太郎)</p> <p>(薬品作用学) 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。(新谷紀人/岩田圭子)</p> <p>(薬物治療学) 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。(岩倉 浩)</p> <p>(薬剤学) 週1回程度の文献抄読会、データ検討会を行う。(福田達也)</p>		
授業の方法・形態	演習を中心とする。		
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。		

成績評価の基準	研究への取組100%（討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定せず、学生自らが準備した資料をもとに演習を行う。